

病院を核としたまちづくり推進特別委員会記録

開催日時 平成26年8月29日(金) 10:03~10:42

開催場所 第1委員会室

出席委員 7名

森山 賀文 委員長

山本 進章 副委員長

大国 正博 委員

山村 幸穂 委員

中野 雅史 委員

神田加津代 委員

小泉 米造 委員

欠席委員 1名

荻田 義雄 委員

出席理事者 渡辺 医療政策部長

中川 医療政策部理事 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 報告案件について

(2) その他

<会議の経過>

○森山委員長 ただいまから病院を核としたまちづくり推進特別委員会を開会いたします。

荻田委員はおくれるとの連絡を受けておりますので、ご了承をお願いいたします。

議事に先立ち、一言ご挨拶を申し上げます。

本日はご多忙のところご出席をいただき、ありがとうございます。

私と山本議員が、さきの6月定例県議会におきまして正副委員長に選任されました。今後、委員各位並びに理事者のご協力、ご支援を得て、円滑な委員会運営に努めてまいりたいと存じますので、この1年どうぞよろしくをお願いいたします。

次に、当委員会の所管事項及び出席を求める理事者についてですが、去る7月14日の正副委員長会議で、お手元に配付のとおり決定されていますので、ご了承願います。

次に、理事者に異動がありましたので、医療政策部長、地域デザイン推進課長の順に自

己紹介をお願いいたします。

○**渡辺医療政策部長** 医療政策部の渡辺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○**本村地域デザイン推進課長** 地域デザイン推進課長の本村でございます。

○**森山委員長** ありがとうございます。

次に、委員会の運営についてですが、お手元に配付しております「今後の委員会の運営について」を説明させていただきます。

1の所管事項及び調査・審査事務については、記載のとおりです。

2の議論の方向についてですが、昨年の委員会設置から議論していただき、一定の議論の方向として取りまとめたものです。

3の委員会の運営についてですが、今後、所管事項等に係る調査並びに審査を行うとともに、ただいまの議論の方向による委員間討議を行いながら、4の当面のスケジュールに沿って、来年の2月定例会におきまして委員会としての成果を報告したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

ただいまの説明について、ご意見がありましたら発言を願います。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、当委員会は引き続き委員間討議の時間もとりながら、調査並びに審査を進めてまいります。

次に、事務分掌表をお手元に配付しておりますので、参考にしていただきたいと思います。

それでは、案件に入ります。

まず、報告案件ですが、中川医療政策部理事から奈良県総合医療センター周辺地域のまちづくりに関する検討状況について、中川知事公室審議官から医大・周辺まちづくりプロジェクトについて報告をしたいとの申し出がありましたので、報告願います。

○**中川医療政策部理事** それでは、お手元の委員会資料に基づきましてご説明させていただきます。

資料は2枚になっておりまして、1枚目が総合医療センター周辺まちづくりに関する検討状況で、本年の取り組み、またここまでに至ります進捗についてご説明させていただきます。

この検討状況の資料の図でございますけれども、2月のこの委員会または議会にご説明させていただきましたイメージで作成したものでございます。奈良市平松地区の敷地約4

万平方メートルほどあるのですけれども、あの敷地を活用して、まず機能として診察医療、それから訪問看護あるいは地域包括ケアにかかわるさまざまな機能を集約したものをこちらに整備したいということと、住民の皆さんの交流の場あるいは健康づくりの場、それから子育ての場ということで、そのようなものをこの場に整備したいという構想をお示したものでございます。

今年度の取り組みでございますけれども、このイメージを引き続き検討を加える中で、全体をイメージできるものをもう少し具体的なものとして検討を進めてまいりたいと考えております。

それと医療と介護の連携でございますけれども、現在、奈良市の医師会の先生方とこの医療と介護の連携について協議を進めているところでございます。今後もこの検討を進めてまいりたいと、奈良市の医師会の先生方の中でも地域包括ケアについての特別チームもつくっていただいております、その先生方と一緒に議論をさらに進めてまいりたいと思っております。

あとは、奈良市との連携、それからいろいろな職種の方が入りますので、多職種との連携の取り組みについても進めてまいりたいと思っております。

もう1点ですけれども、今年度新規事業で予算計上させていただいております、マイ健康カードで、これは診療所あるいはここでいきますと新設する総合医療センターになりますけれども、共通で使える診察カードでそこに個人の健康データを組み込めるようなマイ健康カードを今年度検討していったら、できればこの地域でモデル的に実施させていただきたいということで、その取り組みについても今年度進めてまいりたいと思っております。

次に、まちの保健室の立ち上げ準備ということで、これはボランティアによります健康相談を実施していただく組織で、昨年からボランティアの方を探しております、協力していただける可能性がありますので、その方を中心にして立ち上げの準備を進めていきたいと思っております。

それと一方で地元の方との協議ですけれども、今年度に入ってから2回ほど協議を進めておりますので、ご報告させていただきます。

1点目、奈良市平松地区でのまちづくり協議会で、記載のとおり7月末に、通算で5回目になりますけれども、実施させていただきました。今回、地元の自治会あるいは中部地域の自治連合会の会長も入っていただいておりますご要望もお聞きしたところでございますけれども、県と奈良市の職員も入って意見交換会を実施をさせていただきました。出てきた主な

意見といたしましては、この地域でもしっかりとした医療を残してほしいということ、それから高齢者だけではなくて、子育て世代にも支援できるようなまちづくりを目指してほしいということ、それと住民としても積極的にこの取り組みに協働参画をしていきたいと、積極的なご意見をいただきました。それとあわせてですが、これまで以上に奈良市が積極的にこの問題に関与してほしいというご要望もお受けいたしました。

それから、もう一方で新病院のほう、奈良市六条校区ですけれども、6月末に講演会と、ここで書いておりますけれども、六条小学校で新病院のこと、あるいはまちづくりのことについてご説明させていただきました。当日、200名余りの住民に来ていただきまして、2時間余りご説明とご要望をいただいたところでございます。その中で特に地元の方からは、地域の住民の足の確保ということで、コミュニティーを守れるような形でコミュニティータクシーであったりコミュニティーバスのようなことの協議をさせてほしいということ、それから、これは奈良市平松地区と同じでございますけれども、高齢者だけではなくて、子育て世代にも対応したまちづくりを目指してほしいということ、あるいは住民の方からは、新病院ができた段階で積極的にボランティアとして参加したいというお声もいただきました。非常にありがたい会合だったと思っております。

今年度、以上のようなことで、全体として医療職あるいは専門職の方とのもう少し議論を深め、地域の住民に入っていて取り組みを進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○中川知事公室審議官（医大・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局長兼医療政策部次長 2ページ目、医大・周辺まちづくりプロジェクトということで、平成26年度の取り組みをご報告させていただきます。

まず1つ目でございますが、県立医科大学の教育・研究部門の新しいキャンパス予定地であります農業研究開発センターの整備の関係でございます。こちらが桜井市にあります農業大学校に移りますが、農業大学校が今、解体工事をされております。今年度、新しい農業研究開発センターの実施設計または圃場の設計をされます。平成27年度でございますが、桜井で新しい農業研究開発センターの建設工事、また温室の整備をされて、平成28年度の早い段階で移転が完了される状況でございます。おおむね順調と思えます。

2つ目でございます。医科大学の将来を見据えた大学・病院のあり方・将来像の策定ということで、ハード整備に伴いまして、その中の内容について、今後30年、40年先を見据えまして県立医科大学や県立医科大学附属病院でございますが、そのあり方、理念、

建学の精神を策定するというところで、ことしの1月からですが、県と県立医科大学によりまして将来像策定会議を毎月1回開催しております。メンバーとしましては、県側は知事をトップに、また県立医科大学側は学長をトップに議論をしているところでございまして、県立医科大学の目指すべき将来像を策定しよう。それと今後、施設整備に係ります基本的な考え方を整理しようということで、教育、研究、診療、まちづくりのそれぞれの分野において将来像を検討しているところでございます。

3番目でございます。バスによるアクセスの改善ということで、県立医科大学附属病院の正面玄関口に医大病院玄関口と奈良交通バスの停留所を設ける予定でございます。そちらですが、新しい路線といたしまして、近鉄大和八木駅と医大病院玄関口を運行するバス、それと近鉄大和八木駅から御所または吉野方面に行くバスにつきまして、その路線を一部変更いたしまして医大病院の正面玄関口にバスを乗り入れる計画でございます。おおむね15分から20分に1本程度発着する予定でございまして、10月1日から運行するように、ただいま準備しているところでございます。

4番目といたしまして、交通アクセスの検討でございます。これも従前どおり、県立医科大学の周辺は交通の重要ポイントである一方、渋滞をする大きな交差点がございます。それにつきまして、渋滞対策を引き続き検討してまいる所存でございます。

5番目でございます。文化財の発掘調査ですが、移転を見越してやれるところはやっていこうと、今年度でございますが、農業研究開発センターの北西部分の試験圃場、田んぼでございますが、文化財の発掘調査を秋以降実施したいと考えております。

6番目でございます。県立医科大学と農業研究開発センターの境界確定と測量業務を実施していく予定でございます。

7番目といたしまして、県立医科大学と新キャンパスの大きなゾーニングと、それに伴います動線の検討を実施しているところでございます。

8番目といたしまして、これも従前から申し上げているとおりでございますが、県と県立医科大学、地元橿原市によりますそれぞれの事業の進捗状況の連絡会を開催させていただいております。

それと、記載しておりませんが、橿原市の取り組みといたしまして、橿原神宮の参道から広域消防本部または橿原市の運動公園に至ります橿原市道、慈明寺町・四条町線がございます。それにつきまして拡幅と新設をあわせて橿原市でご検討いただいて、今年度は道路の予備設計と測量をしていただく予定でございます。

以上、簡単でございますが、報告をさせていただきます。

○森山委員長 ありがとうございます。

では、ただいまの報告またはその他の事項も含めまして、質疑があればご発言願います。

○山村委員 それでは、質問というほどでもないのですけれども、伺っておきたいと思えます。

県でも先ほどのご報告でまちづくり協議会ということで開いていただいているということですが、地元住民の皆さんの移転・建て替え問題を考える会でも7月13日に懇談会が開催されました。私も参加させていただきましたけれども、当日は大雨だったのですが、50名余りの方が出席されまして、大変熱心に議論されました。皆さん安心して住み続けられるまちづくりということでご意見を本当に出していただけたと思っております。

その中で、今もお話がありましたように、特に医療です。医師を確保していただいて、跡地にも医療の施設が必要だというご意見が強くありますとともに、高齢者の方々の居場所づくりであるとかボランティアの活動であるとか、県がイメージされている図がありますけれども、こういうものが本当にできるのかと非常に期待もされているという声をお聞きしております。その中で特に意見として出されておりましたのが、奈良市の動きにつきまして、もう少し積極的に動いてもらわないといけないのではないかと大勢の方からご意見がございました。特に地域包括ケアシステムということになりますと、実施主体が奈良市になりまして、病院にしても施設にしても介護の問題にしても、奈良市の計画の中にそのことを盛り込んで進めていかないと進まないということもありますので、その点を要望される方が非常にたくさんありましたが、問題意識としては県もそのように思っていると思うのですが、今後の奈良市のかかわりという点で、県としてはどのように進めていかれるのかということについてお聞きしておきたいと思えます。

○中川医療政策部理事 それでは、お答えさせていただきます。

これまでも答弁させていただいていますように、この問題につきましては県有地でありますこと、それから整備を進めるのは県ということで、奈良市の担当に、この議論にも参加をいただいているのですけれども、奈良市の担当部長、課長については、ご自身の立ち位置も難しい位置で参加いただいているのが事実でございます。そういうことでもございまして、奈良市に、副市長、部長を含めて、もう一度この辺の考え方について説明させていただいたところでございます。

先ほども説明させていただきました7月の意見交換会に奈良市の担当も参加いただきま

した。これまでも県の担当課と奈良市の担当課の担当者同士で少し議論は重ねてきたのですけれども、今後、地域の方も入っていただいたワークショップのような形で、医療と介護の連携それから子育て支援、健康づくりということで、それぞれワークショップを再度やりながら、地域の方と県と市の職員が入って少し具体的な議論を進めたいという合意もいただきましたので、来月ぐらいからになるかと思えますけれども、再度、市の担当も入っていただきながら、このまちづくりについての協議を進めてまいりたいということでございます。以上です。

○山村委員 答弁していただきましたように、奈良市の積極的なかかわりは非常に大事だと思うのですが、これまでまちづくり協議会には奈良市はオブザーバー参加と聞いているのですけれども、このままオブザーバーではだめではないかと思うのです。その点はちょっと考えたほうがいいのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○中川医療政策部理事 当初から、県有地の活用で県が主体的にやっていくという事業がスタートですから、奈良市についてはオブザーバーという形で参加をいただいております。ただ、先ほども言いましたように、地域包括ケアを実現できるまちということでの位置づけで進んできておりますので、奈良市も積極的にこのワークショップの中に入っていただいて、奈良市としてのご意見をいただく形で今後進めてまいりたいと思っております。以上です。

○山村委員 オブザーバーという形ではなく、正式な主体的なメンバーという形での参加が望ましいと思えますので、早くそういう形にさせていただくことを、要請しておきたいと思えます。以上です。

○大国委員 1点質問で1点要望としたいと思えます。

今、地域包括ケアシステムの取り組みについてご説明いただきました。2025年を目指しての大事な取り組みだと思えますし、また本気でしっかりと取り組んでいかないと、気がついたときにはもう取り戻せない状況が生まれるところも出てくるのではないかと危惧される方もいらっしゃると思います。

そんな中で、7月9日に千葉県柏市へ2回目の視察に行かせていただきました。1回目はまだ何もでき上がっていない中でご説明をいただいたわけですが、先般はさまざまな機能を集積した複合拠点もでき上がっておりますし、また子育てがしやすいようにと思えますが、公園等も十分なスペースを使ってつくられておりました。また野菜づくりをしているところもありまして、現場も見せていただきました。そういった中で

柏市あるいはURの担当者からお話を聞きましたけれども、非常に自信をお持ちになっているというのが第一印象でございました。

説明を受けたと同時に、お忙しいと思いますけれども、住民の方が一緒にお話を聞かせていただきたいということで壮年の方、婦人の方がいらっしゃってございました。本当に熱心に聞かれていたのが印象的でございます、もっともっと県民の皆さんも一緒になって、地域包括ケアシステムを考えていかななくてはならないと感じた次第であります。

地域包括ケアシステムとはそもそも何かというところから入らなくてはならないというのが第一印象でありまして、理解をしていただくと、ぜひともやってもらいたいという声も強く聞かれるわけでございます。そういったところも含めて、事業を進めると同時に、県民意識の向上という観点もしっかりとあわせてお願いしたいと思っております。

また、市町村から、今年度つくられる基金の中身について、さまざまなお問い合わせもいただいておりますけれども、国民の皆さんの貴重な消費税あるいは税金等を使うわけでございますので、要綱等ができましたら速やかに市町村に対しての連携をお願いしたいと思っております。

さて、質問でございますけれども、新奈良県総合医療センターの建設が進んでおります。あの進入路から見ると随分進んできたと思っておりますけれども、これまで質問もしてまいりましたけれども、アクセスの問題です。近鉄奈良線からのアクセスについて、今どのような協議をさせていただいているのか、その内容についてお伺いをしたいと思っております。

○蘆村新奈良病院建設室長 新奈良県総合医療センターへのバスアクセスでございますけれども、鉄道駅からのアクセスにつきましては、既存の路線バスの活用を基本にいたしまして、事業者である奈良交通と協議を進めているところでございます。最寄り駅であります近鉄橿原線の西ノ京駅、近鉄郡山駅から新奈良県総合医療センターまでの路線バスにつきましてはおおむねご了解いただいております。現在、奈良交通において運行ルートあるいは運行本数をご検討いただいております。委員がお述べの近鉄奈良線沿線からのバス路線につきましても同様に協議を行っており、現在、採算性等を含めて奈良交通で検討いただいております。

引き続き新奈良県総合医療センターへのバス路線の確保に向けましては、新奈良県総合医療センター周辺環境も変わってきておりますので、そういったことも踏まえまして協議を続けていきたいと思っております。

○大国委員 ありがとうございます。さきの本会議で代表質問もさせていただきましたが、

今答弁いただきましたように、周りの環境はさまざまなお店が張りつき準備をされておりますし、県の奈良市中町の駐車場もございますし、あの周辺のまちづくりが大きく変わろうとしておりますので、そういったことも考慮して検討されてるということでございます。

現状では、近鉄学園前駅の南側からバスが出ていると思いますが、朝に立っていますと、お年寄りも含めて、先生方も乗っていかれますが、非常に重要なアクセスの路線と感じておりますので、採算性も大事でございますけれども、患者あるいは関係者の視点に立って、ぜひとも前向きにご協議をいただきたいと思っておりますので、その点要望でとどめたいと思います。よろしく申し上げます。以上です。

○神田委員 毎回丁寧にご説明いただいているのでよくわかっているつもりなのですが、同じような質問になるかわかりませんが、1つは、この地域包括支援センターが先ほども出ておりましたけれども、まだまだ、これだというのがつかめていない、こうしていこうとする人たちもつかめていないと、実際感じているところで、これが本当にできるのかという思いも持っています。そんな中で、この図で、交流の場としてこういうこともやれたらというのか、自然にこういう形になっていくのか、子育て支援の話などするのはわかりますが、コミュニティービジネス、起業・就労までできるのかというと、余計に地域包括支援センターがどういうものかややこしくなっていくと思ったのですけれども、その辺のところはどうなのでしょう。どういうつもりで書いていただいているのかを、教えてください。

それから、橿原市の県立医科大学附属病院の件ですが、これもいつも説明をいただいております。そんな中で、高齢者の対策や駐車場の対策でやっていただいているバスによるアクセスの改善は非常にありがたいと思うのです。ただ、県のいろいろなホームページなどで広報を思うのですけれども、なかなか浸透というか知られてない、動き出したらわかるということもありますけれども、広報活動をどうしているのかと、それから、この玄関まで乗り入れていく道路は、近鉄大和八木駅から真っすぐ南へ来て兵部町交差点を左に曲がるでしょうか、国道169号に入って、次の信号を右に曲がって、西に入って、またそういうようにして近鉄大和八木駅のほうに出ていく。それしかないですよ。わかりました。

それと、県立医科大学のキャンパスの動線ですけれども、今検討中という答弁になるとは思いますけれども、この道だけは使おうとか、基本になるのはこれだということも今わかっていますか。

○中川医療政策部理事 1点目のほうのご説明をさせていただきます。

この場所を活用してどのような施設を整備していくかについては、まだできておりませんので、これくらいのイメージになっているのですけれども、先ほど大国委員からお話を出していただきましたように、千葉県柏市が一つのモデルになるのです。柏市の場合是一定のエリアであるのですけれども、敷地からいうとURの敷地の中で、下のほうにいろいろな施設をつくって上のほうに高齢者向けの住宅があるということです。奈良市平松地区は4万平方メートル以上の敷地を利活用するので、介護系あるいは健康づくり系の施設の整備も含めてやりたいということで、直接的な雇用の場にも結びつけていきたいということと、それからこちらに書いていますのは、それ以外にも高齢者の方あるいは女性の方が近場で、高額の入居にはならないかもわかりませんが、カフェや食堂あるいはそういったことのできるようなものをこちらに整備することで、コミュニティービジネスのようなものが展開できないかと、その思いも含めまして入れております。直接雇用それからコミュニティービジネスになるような、高齢者や女性の方でも入っていただけるような就業の場にもできれば活用したいということで、広い敷地の利活用について今年度を含めて詰めていきたいと思っております。

○中川知事公室審議官（医大・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局長兼医療政策部次長 まず1つ目でございます。県立医科大学附属病院へのバスの広報ですけれども、県民だよりの9月号、それと橿原市、御所市、明日香村、高取町の市町村民だよりの9月号に載せていただけるように今調整をしているというか、実はもう配られているところがございまして、住民からお電話をいただいて、便利になるとわかっていただきたみたいで非常にありがたく思っています。橿原市の広報はもう配られたと思いますし、県の広報も週明けに配られると思いますので、そういう形で進めさせていただいております。

スタートするときだけではなくて、適宜状況を見ながらと思っておりますし、時刻表もきちんと確定したら近鉄大和八木駅の南側に看板も立てたり、とにかく乗っていただけるように、少しでも便利にお年寄りの方が通院していただけるように考えております。

それと先ほどバスの運行の件ですけれど、近鉄大和八木駅から南へ向いて走ります。そして兵部町の交差点を左に曲がりまして、国道169号を道なりに来ていただいて、病院の玄関口へ入るところを右に曲がって、正面玄関へ入っていくという形。出ていくのは、南側に出ますのは、病院の正面玄関口に入る国道169号の交差点を今度は右に曲がって

出ていく。それと近鉄大和八木駅へ戻る場合は、左に曲がり、兵部町の交差点を右に曲がっていくと、そういうことでございます。

○神田委員 国道169号を右に曲がるのですか。

○中川知事公室審議官（医大・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局長兼医療政策部次長 近鉄大和八木駅への帰りは兵部町の交差点を右に曲がってということ。

○神田委員 遠回りみたいなものですね。そうでもないか。あっちでも通るのですね。

○中川知事公室審議官（医大・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局長兼医療政策部次長 大和高田バイパスに上ったり、そういうことは一切しませんので、昔の道を通っていくと、国道24号と国道169号を通っていくと考えていただきたいと思います。

それと新しいキャンパスの動線ということで、実際に何回も歩いています。基本的に学生が利用すると思っていますので、例えば近鉄大和八木駅または近鉄八木西口駅から歩いていただいたら、今井町の尊坊橋を越えられて、沿道整備されています道を南に下っていくと、大和高田バイパスの側道に出ると思います。側道を歩いていただいて、農業研究開発センターの正面の入り口を通っていただくのが、歩行者にとってのルートと思っています。

それと、もう一つは大学との通路でございますけども、先ほどご説明させていただいたように、神武天皇と綏靖天皇陵の間の慈明寺町・四条町線を拡幅いたしますので、歩道もつくり、そこを通って新しい大学と今の病院を行き来していただくのが最短距離になると思います。それは歩行者動線です。それと側道にはきれいな歩道もきちんと整備されておりますので、車も歩行者も同じような形で通っていくと思っています。

それと現在の県立医科大学の敷地ですけれども、ちょっと新しい路線というか、動線も考えながら検討しているところでして、まだ具体的にどうしようかというのはこれからの話なのですが、なるべく渋滞の多い小房交差点を通らない、負担をこれ以上かけないような形で考えられないのかと思っています。小房交差点で、大和高田バイパスから来る車が、県立医科大学附属病院の駐車場に入ろうと思えば、小房交差点を無理に右回りし、コンビニへ入って、向き変えて駐車場へ入っていく。そういうことを避けて、できれば小房交差点を左回りで入れるような形で、県立医科大学があるところは基本的に病院施設と駐車場施設という大きな位置づけで、大学の教育・研究部門は農業研究開発センターに行きます

ので、なるべくそういう形で小房交差点に負荷をかけない形で検討しているところでございます。以上でございます。

○神田委員 はい、わかりました。コミュニティービジネスもそういう形でやられるという。これは、その中にいる人だけでしょうか。外部からここへ来て就職はありませんかということはないですね。その辺は、できてからややこしいことにならないように気をつけていただいて、さらに検討して、うまく活用できるようにやってもらいたいと思います。

それから、県立医科大学附属病院へのバスのアクセスはそれで結構ですが、市民の声を聞くと、少し広報としては遅かったという気もいたします。また徐々に広めていってほしいと思います。県立医科大学と新キャンパスの道路は、答弁いただいたように、特にその辺に気をつけていただきたい、近鉄大和八木駅から校舎へ行く道路も気をつけていただきたい。きのう県立医科大学であった厚生委員会の県内調査で地元議員として出ておりましたけれど、医師確保や学生確保は、キャンパスの魅力もすごい大きなウエートを占めてるということも、ありましたので、しっかりと計画倒れにならないように、きちんとしたものをつくってほしいと思います。以上です。

○森山委員長 ほかにございませぬか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ほかになければ、これで質疑を終わります。

それでは、これをもちまして本日の委員会を終わります。